23. 2024年度　中学入試問題　出題のねらい・講評と難易度

● 2024 年度　中学入試　第 1 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	81%	86%	全ての生きものは等しくたましいを持つものとし、人間中心に全てのものごとを捉えようとする我々人間の有り様を問い直すテーマで書かれており、その主題に沿って展開していく論旨を正しく丁寧に読めているかを問う。	大きな論旨は概ね読み取れていたと思う。文中のキーワードも押さえられていたが、細部における論の展開でのつながりがうまく読み取れていない点が見られ、合格者、不合格者の差がつく問題になったと思われる。記述問題においても同様である。
	問 2	93%	97%		
	問 3	86%	93%		
	問 4	84%	85%		
	問 5	68%	80%		
	問 6	87%	93%		
	問 7	32%	36%		
	問 8	83%	94%		
	問 9	61%	74%		
	問 10	68%	77%		
2	問 1　A	64%	73%	野球が好きな二人の少年が出会い、同じ中学でバッテリーを組んで活躍していく姿を描いた作品である。彼らの言動を通して、心情や考えを読みとっていくことが中心の出題である。	ほぼ予想どおりの結果であるが、問4については、受験生全体の語彙力不足を感じさせる結果となった。例年感じることだが、小説というジャンルに苦手意識があるとすれば、語彙力の低さにもその一因があるように思われる。
	B	76%	80%		
	問 2	42%	53%		
	問 3	74%	89%		
	問 4	42%	39%		
	問 5	66%	79%		
	問 6　Ⅰ	81%	89%		
	Ⅱ	42%	55%		
	問 7	70%	81%		
	問 8	79%	89%		
	問 9	60%	61%		
	問 10	26%	42%		
3	問 1	63%	76%	少し古い時代の詩を出題することでさまざまな日本語の文体、語彙に慣れているかどうかを問おうとした。	全受験者と合格者の正答率の差が多く出たのが問1と問5でどちらも内容の読み取りが求められる問であった。詩を読む際にはその情景を頭の中に浮かべながら読む訓練をしたい。
	問 2	70%	77%		
	問 3	55%	57%		
	問 4	54%	57%		
	問 5	60%	71%		
4	問 1　1	84%	87%	漢字の勉強を効率よくするために必要な知識は、漢字の多くが意味を表す部首と音を表す部分の組み合わせでできているということだ。そこで毎年のように部首に関する問題を出している。部首の由来や意味はぜひ勉強しておいてほしい。	この問題はそれぞれの組み合わせを考えるより、1～10の選択肢が表す部首を先に明らかにした方が早く解けるだろう。彳や禾のように部首名が意味を表していないものには特に注意が必要。
	2	68%	77%		
	3	92%	93%		
	4	73%	83%		
	5	80%	84%		
	問 2　A	26%	27%		
	B	19%	29%		
	C	34%	46%		
	D	32%	41%		
	E	27%	37%		

● 2024 年度　中学入試　第 1 回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	93%	100%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算の基本問題、小数点以下の数字の規則性を探し条件を満たす和を求める問題、図形（平面・立体）の基本的な処理を問う問題などを出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	問４以外は解きやすい問題で、全体的に得点率は高いものとなった。また問８の回転体の体積の問題は典型的な問題であるが、計算ミスのため、得点率が低めになってしまった。問４と問８の出来が合否を分ける結果となった。
	問 2	79%	81%		
	問 3	69%	88%		
	問 4	35%	59%		
	問 5	81%	87%		
	問 6	72%	86%		
	問 7	83%	86%		
	問 8	52%	73%		
2	問 1	76%	93%	本校の入試では典型的な平面図形の問題。平行線と辺の比の基本的な知識や、線分比と面積比の考え方などが理解できているかがポイントとなる。線分比と面積比に関する標準的な問題である。	問１は線分比の基本的な問題であり、得点率は高かった。また、問２では面積が等しいことを利用して、線分比を求める問題。問３は問２まで求めた線分比を利用して面積比を求める問題。基本を押さえつつ、どこまで応用問題に取り組めるかが大切である。
	問 2	34%	56%		
	問 3	18%	39%		
3	問 1	87%	96%	特殊算の複合問題（たこ焼きの箱とジュースセット）。箱のみで買う場合とセットの場合での条件整理ができるかがポイント。また、全体的に桁数が多い計算となるので、工夫して計算できるか否かもカギとなる。	問1、問２は典型的なつるかめ算の問題であったので、正答率は高かった。問３は比の合成を使って、それぞれの比を求め、合計金額に関する式を立式できるかがポイントとなった。桁数が多い分、計算を確実にできるかも合否の分かれ目になったかもしれない。
	問 2	79%	89%		
	問 3	7%	14%		
4	問 1	73%	86%	円柱と三角錐の容器内の水の体積に関する問題。半径や高さの比を活用して、円柱と三角錐の容器に入っている水の割合を求められるかを見る問題であった。	問１は基本的な問題であり、確実に得点しておきたい。問２は条件が少し複雑であるが、相似比を上手く活用して、中に入れた円柱の棒の半径を求め、追加して入れた水の量を求められるかがポイントとなった。
	問 2	19%	36%		
5	問 1	4%	7%	２人がコインを投げ得点を競い、コインの表裏の出方を考える、場合の数に関する問題。２人合わせて５回目は必ず裏であることに気付けると数え上げが楽になる問題であった。	問１はゲームが終わるまでの表裏の出方を考える問題。漏れなく数え上げられるかがカギとなった。パターンが複雑な分、正答率も下がってしまった。問２は得点に関する問題。問１が正解しなくても、A、Bの表裏の出方を考えると正解に辿り着けた受験生も多かった。
	問 2	33%	46%		

● 2024 年度　中学入試　第 1 回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	66%	76%	各都道府県の位置、人口や面積、気候、中心都市、おもな産業や農畜産業の特色などを多角的に問うことを出題のねらいとした。データの読み取りから、各都道府県の特徴を見出す力も求めた。また、地名などの基本的な学習事項を正しく記述する力も確認した。日頃から地図に親しみ、いろいろな視点と地理的関心を持って学習することを求めたい。	人口密度や県庁所在地など主要都市の位置関係を含めた応用問題では、正答率が低いものとなった。一方、正答率が比較的高い基本的問題では確実に得点する力が基礎力の充実が必要である。日頃から正確な記述力と読み取る力の重要性を意識して学習することが必要であろう。
	問 2	59%	67%		
	問 3	31%	43%		
	問 4	86%	89%		
	問 5	82%	86%		
	問 6	60%	71%		
	問 7	74%	84%		
	問 8	80%	89%		
	問 9	29%	39%		
	問 10	65%	74%		
	問 11	42%	47%		
	問 12	91%	97%		
	問 13	69%	76%		
2	問 1	86%	81%	基本的な知識の習得を前提として、正誤問題や並び替えの問題を出題した。基本的な語句の書き取りはもちろんのこと、問題文をしっかり読み取って正解にたどり着けるかを出題の主眼としている。人物と語句を単純に結びつけるだけでなく、前後関係や時代区分も意識して学習したい。	解いているときは、おそらく簡単と感じるような問題もあったと思うが、問11のように条件を付け加えることで非常に難しくなる。しっかり読まないと2を選んでしまうが、内閣制度と結びつけられたかが鍵となる。問10も前提条件を正確に理解した上で並べ替えがスタートする。出来事の名前だけではなく、その時の将軍や政治の担当者などとしっかりと結びつけて理解しておきたい。
	問 2	68%	73%		
	問 3	96%	97%		
	問 4	81%	90%		
	問 5	60%	73%		
	問 6	45%	64%		
	問 7　C	55%	63%		
	D	85%	91%		
	問 8	73%	80%		
	問 9	86%	94%		
	問 10	16%	23%		
	問 11	24%	31%		
	問 12	82%	83%		
	問 13	45%	51%		
3	問 1	99%	100%	社会的出来事に興味をもち、日頃の学習事項を結び付けて関心・意見をもつことを求めた内容とした。特に新聞という情報源を用いて活字を読み、思考することは小学生にとっても大切な学習と捉えている。	全体として予想を上回る正答率となった。日頃の基礎学習が定着していたことと判断できる。一方、問6、問10のような時事問題では、社会事象に対する日頃の大人との会話、意見交換が知識となるものであった。問9については小学生にとっては難問であったと共に漢字の間違いが重なったことによるものであった。
	問 2	76%	79%		
	問 3　(a)	9%	16%		
	(b)	66%	80%		
	(c)	40%	47%		
	(d)	97%	100%		
	問 4	94%	97%		
	問 5　(1)	82%	90%		
	(2)	70%	83%		
	問 6	26%	30%		
	問 7	49%	64%		
	問 8	91%	94%		
	問 9	0%	0%		
	問 10	67%	73%		
	問 11	86%	97%		
	問 12	24%	24%		

● 2024 年度　中学入試　第 1 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	39%	50%	顕微鏡の特徴と操作方法について、また会話文から細胞の様子をイメージすることができるか読解力を問うた。小学校理科の実験で誰もが一度は操作したことがあると思うが、レンズの性質と一つひとつの操作を関連付けて理解できているか確認した。	問１の選択肢はどれもが見たことのある図だと思うが、正答率は意外にも低かった。「葉の構造は見る方向によって異なってくる」ということは当然のことではある。 問７は、顕微鏡のステージの動作によって葉の２層の細胞の上下どちらが先にピントが合うのか気づくことができるか。 いずれも知識と実際の操作を正しく関連付けることができていない受験生が多いという実態が分かった。
	問 2	84%	90%		
	問 3	73%	77%		
	問 4	58%	70%		
	問 5	73%	84%		
	問 6	46%	50%		
	問 7	23%	26%		
2	問 1	76%	74%	太陽系の惑星の運動や地球からの見え方を問うなど、基本的な内容を出題した。問１は天体というより計算問題である。問２は惑星についての基本的な問いである。問３～問５は天体の典型的な問題であり、点数を取りたいところである。問６は問題文中に書かれていることを読めば、答えることができるが、逆行がイメージできないと答えが出ない。	問６を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問２～問５は、基本問題であり、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問６は問題文をきちんと読みこなせた受験生は答えることができたのではないかと考えられる。
	問 2　(1)	84%	89%		
	(2)	70%	67%		
	(3)	91%	94%		
	(4)	87%	93%		
	(5)	80%	84%		
	(6)	70%	74%		
	問 3	66%	81%		
	問 4	80%	84%		
	問 5	47%	60%		
	問 6	25%	31%		
3	問 1	10%	14%	物質が酸素と結びつくことを酸化というが、金属の酸化物にはどんなものがあるだろうか。酸化の前後で酸化物の重さはどのように変化するのだろうか。また、このような化学変化をするとき、規則性があるのだろうか。これらについて、基本的な知識が身についているか、与えられた情報から、量的な計算が出来るかどうかを問う問題である。	化学反応（酸化）について、問うている。問１は予想より出来ていなかった。実際に行ったことのない実験上の注意点を問うているが、受験生には難しかったようだ。問4以降では、「原子」の概念はないかもしれないが、問題文をきちんと読解できた受験生は解けていたと思われる。
	問 2	99%	100%		
	問 3	62%	83%		
	問 4	66%	76%		
	問 5	35%	53%		
	問 6	48%	59%		
4	問 1　a	70%	79%	静電気に関する問題。静電気の引き合う力と反発し合う力のバランスから、物質内の電気の偏りとその結果としての物体の振る舞いを考察させることをねらいとしている。	問題の表や具体的な現象例から、考察が可能なものであったが、２つの要素を同時に考察する必要のある問題で、正答率が二分した。
	b	75%	80%		
	問 2	34%	43%		
	問 3	40%	53%		
	問 4	22%	29%		
	問 5	47%	57%		
	問 6	57%	69%		

● 2024 年度　中学入試　第 2 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　ア	56.1%	68.0%	入試問題では頻出テーマの科学論から出題した。受験生の力を多角的に見るため、語彙を問う問題、部分的な読解力を問う問題、表現の意図や筆者の主張を問う問題など、さまざまな問題を出題した。	慣用句やことわざなどはよく対策できているためか問6の正答率は予想よりも高くなった。一方で少し問い方にひねりを加えたり傍線近辺だけで答えられないような表現に関する問題は正答率が低めとなった。本文・設問文ともに書いてあることの要旨をきちんと理解して解くのを心がけてほしい。
	イ	77.5%	85.5%		
	問 2	74.6%	85.5%		
	問 3	90.5%	96.2%		
	問 4	11.5%	18.3%		
	問 5	63.0%	74.8%		
	問 6	89.9%	93.7%		
	問 7	32.7%	39.2%		
	問 8	49.2%	55.4%		
2	問 1	57.1%	57.4%	まもなく中学生になる少年の心理心情、周りの大人たちの微妙な人間関係が描かれた小説である。これら登場人物の機微を読み取ることがまず求められる。また、小説の構造や展開についても問うてみた。戦争中の人間の姿というのも小説から学んでほしいことの一つである。	傍線部の説明を求める問題で、本文中に根拠となる事柄がはっきりと書かかれていないものについては、できた人とできない人の差がついた。このような問題では本文を読む力に加えて、選択肢の説明を適切に読解し、出題者の意図をくみ取る力が試される。問題集や過去問を解く際は、○×をつけるだけではなく、なぜその答えが正解になるのかという理由まで復習するとよいだろう。
	問 2	39.6%	51.0%		
	問 3	21.5%	24.3%		
	問 4	93.0%	96.6%		
	問 5	39.6%	46.9%		
	問 6	89.7%	94.2%		
	問 7	69.2%	80.4%		
	問 8	25.3%	32.4%		
3	問 1　C	10.0%	13.4%	受験者のレベルを高めに想定し、やや中学受験生にはなじみのないテーマの詩を出題した。	本校入試の韻文では表現技法が比較的正解しやすい問題のため、あまり準備して臨まない受験生が多かったのか問1は1割ほどの正答率となった。行間が多く文脈での意味判断がしにくい韻文こそ、表現の意図や一つ一つの語彙のニュアンスを正確に捉えることが望ましい。
	問 2　A	93.3%	95.0%		
	問 3　B	63.8%	71.2%		
	問 4　B	28.5%	33.3%		
	問 5　B	50.1%	59.9%		
4	問 1　1	81.0%	86.3%	ことばの誤用を問うことをねらいとした。普段何気なく用いていることばにはそれぞれ意味がある。その内容を感じながらことばを用いてもらいたいと思い出題した。	馴染みのあることばとそうではないことばで正答率に差があったかと思う。学習の際に辞書等を用いながら語彙力を高めてもらいたい。
	2	91.5%	94.9%		
	3	89.5%	91.1%		
	4	65.2%	71.2%		
	5	92.6%	95.5%		
	問 2　Ⅰ	22.4%	29.4%		
	Ⅱ	48.3%	54.7%		
	Ⅲ	38.8%	46.3%		
	Ⅳ	9.7%	14.3%		
	Ⅴ	19.1%	24.9%		

● 2024 年度　中学入試　第 2 回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	90%	95%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、数の性質、図形（平面・立体）の計量を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	問5と問7以外の問題は基本的な問題で解きやすい問題が多かったせいか、全体的に高い得点率であった。問5の規則性の問題は、場合分けが発見できないため、また問7の角度の問題は補助線を引くことができなかったため、ともに得点率が他の問題より低かった。
	問 2	86%	93%		
	問 3	95%	99%		
	問 4	78%	84%		
	問 5	58%	73%		
	問 6	87%	95%		
	問 7	26%	33%		
	問 8	90%	94%		
2	問 1	83%	93%	本校では特徴的な平面図形と面積比を絡めた標準的な問題である。問1は補助線を引き、底辺の比から三角形の面積比を求める基本問題。問2は問1の結果を利用し、線分比から三角形の面積比を求める問題である。	問1は補助線を引き、底辺の比から面積比を求める基本的な問題であり、得点率は高かった。問2は問1を利用し、底辺の比から進めていき三角形の面積比を求めていく問題で、最初の段階での線分の比が求められず、予想より低い得点率となった。
	問 2	17%	27%		
3	問 1	70%	87%	場合の数と特殊算をモチーフにした融合問題。問1はそれぞれのグループでの試合数を求め、試合数を求めていく場合の数の問題。問2はグループごとの参加した人数の比と、試合数の合計から参加人数の合計を問う特殊算の問題である。	問1は場合の数の基本問題であり、得点率は高かった。問2はグループごとの参加した人数の比からグループの数の比を適切に求められず、予想より低い得点率となった。
	問 2	45%	67%		
4	問 1	74%	88%	小さい立方体を組み合わせた立体を切断したとき、切断された小さい立方体の個数を求める問題。切った後の、正しい上から見た図を理解させ、段ごとで考えて解く思考力の高い問題である。	問1は切断したときの段ごとの上から見た図が考えやすく、得点率は高かった。問2と問3は逆に考えにくく、上から見た図を適切に理解していないと、解けない問題であったため、正確に解ける受験生は少なく、得点率は低かった。
	問 2	18%	31%		
	問 3	23%	36%		
5	問 1	69%	78%	条件に合う数を小さい順に並べていく場合の数の問題である。それぞれの位の数について場合の数を正しく求め、1桁の整数の個数、2桁の整数の個数と順に導き、正しく計算で求められるかがポイントとなる問題である。	問1は一の位の数と十の位の数の場合の数を正しく求められており、得点率は高かった。問2と問3は問1と基本的な考え方は同じだが、場合分けの量が多いため、残り時間で解くのが難しく、50％より低い得点率となった。
	問 2	37%	56%		
	問 3	31%	50%		

● 2024 年度　中学入試　第 3 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	22%	34%	一見主張型の文章のように思えるが、実際には承認の仕組みについて述べた説明型の文章。丁寧に読めば難しい内容ではないが、「〇〇の承認」という言葉を複数定義しており、読んでいて混乱しやすい。昨今の情報処理能力を問うような出題傾向を意識して文章・問題を設定した。	内容として難しい文章ではないので、設問を解答する論拠となる範囲を限定しやすい問題（問3）は得点率も高かった。一方で、問1文挿入や、問4文章構成に関わる問題は得点率が低かった。受験者には、俯瞰して文章全体を捉えることも意識してほしい。
	問 2	49%	65%		
	問 3	75%	89%		
	問 4	39%	54%		
	問 5	53%	73%		
	問 6	39%	54%		
	問 7	31%	31%		
	問 8　1	84%	88%		
	2	69%	80%		
	3	67%	79%		
	4	24%	29%		
2	問 1　ア	55%	63%	平均的な難易度の文章を使用し、登場人物の心情の変化を物語の時間の流れに沿って把握できるかどうかを試した。物語を読むにあたって、何がきっかけになって、どのように心情が変化したのかをしっかりと理解してほしい。	出題のねらいにも記したように、登場人物の心情が何がきっかけになってどのように変化したのかを問うた。選択肢の中で少しまぎらわしい文章を出すと、ひっかかってしまう人が多かったので、限られた時間内ではあるが、丁寧に読むことを意識してほしい。その他、語彙力ももう少しつけてほしいと感じた。
	イ	74%	88%		
	問 2	76%	84%		
	問 3	63%	69%		
	問 4	49%	64%		
	問 5	44%	55%		
	問 6	42%	50%		
	問 7	64%	65%		
	問 8	50%	56%		
	問 9	48%	56%		
3	問 1	54%	71%	日常生活でのひとこまを描写した詩の情景を想像し、そこに込められた作者の想いを読み取る問題。まずは詩の中で描かれている内容を正確に読み取ることができるか基礎力を試した。次に表現技法に注目して、そこに込められている作者の想いを読み取れるかを問うた。さらに題名である「何処へ」を含めて詩全体からテーマを読み取れるかを応用問題として出題した。	どの設問も極端に得点率が高い（低い）ものはなく、全受験生と合格者の得点率差も大きくは開かなかった。最も差がひらいたのは問1である。今回は出題形式に若干ひねりがあったものの、問われていたことは従来の表現技法と大差ない。表面に惑わされず、何を問われているか判断し解答することが肝要である。
	問 2	70%	76%		
	問 3	69%	75%		
	問 4	39%	51%		
	問 5	53%	64%		
4	問 1　1	86%	90%	オーソドックスな漢字の書き取りと、時事問題と言語文化に関する知識を絡めた問題を出題した。	漢字の書き取りはどれもよく書けていた。将棋由来の言葉に関しては受験生全体と合格者の間で大きく差が開いた。日頃から漢字の成り立ちや言葉の由来など、国語的な知識に関するアンテナを広げておくことが必要となるだろう。
	2	93%	98%		
	3	87%	91%		
	4	95%	94%		
	5	91%	90%		
	問 2　1	71%	76%		
	2	59%	65%		
	3	45%	66%		
	4	30%	49%		
	5	28%	48%		

● 2024 年度　中学入試　第３回・グローバル　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	97%	98%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確かめる小問集合。四則演算、単位換算、年令算、食塩水の濃度、3進法、素因数分解、図形（平面・立体）を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。	問８は難易度に対して得点率は低く、１番多かった間違い方は、真っすぐな線でかくべきところを、折れ線でかいてしまうパターンであった。その他の小問については概ね予想通りの得点率であった。
	問２	76%	86%		
	問３	86%	89%		
	問４	88%	93%		
	問５	48%	63%		
	問６	61%	83%		
	問７	89%	98%		
	問８	29%	44%		
2	問１	95%	100%	本校では特徴的な平面図形と比を絡めた標準的な問題である。問1、問2は相似比、問3が面積比を利用して線分比を考える問題である。面積比については苦手とする受験生が多く、問3はこの大問の１番重要な問題である。	問1、問2は過去問演習している受験生にとっては易しい問題であり、しっかり得点しておきたい。また問3の得点率をみると、面積比を利用して線分比を求めることができない受験生が多いことが分かる。この問3を得点できるだけの平面図形への理解があると合格へ大きく近づくことができるだろう。
	問２	88%	99%		
	問３	20%	38%		
3	問１	23%	34%	条件をみたす大福と最中の買い方について問う問題であった。計算力はもちろんのこと、代金の計算をしていくなかで、条件をみたすかどうかをすばやく判断する力が求められる。	問１は代金が最も高くなる場合と低くなる場合を押さえることができれば難しくはないが、すべての場合の数を書こうとすると大変であり、得点率の低さにつながったと思われる。
	問２	19%	43%		
4	問１	80%	95%	鉄道の運賃を題材に、特殊算を用いる問題であった。団体割引の利用や途中で降りてから再び乗車するなど、状況によって払う運賃が変わることに関して、どれだけ対応できるかをみる問題であった。	問1から問3まで得点率は高く、よく解答できていた。このような得点しやすい大問を逃さないためにも、本番の試験での時間配分についてはよく考えておきたい。
	問２	57%	74%		
	問３	42%	66%		
5	問１	8%	18%	さいころをたおしていく中で、上を向く目が何かを把握する空間認知力と、「1が上を向いているとき、次に上を向く可能性がある目は何かをかきだしてみると…」といった情報整理ができるかを問う問題であった。	難易度が高いこともあり得点率は低く、差があまりでなかった大問といえる。しかし空間認知力と情報整理する力を高めることできる良い問題のため、本番がこれからの受験生にはぜひ解いてもらいたい１題である。
	問２	1%	4%		

● 2024 年度　中学入試　第３回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１　（1）A	99%	100%	日本国内の地理に関して、国内全般を見渡して考察する、地方の特徴への理解を計る、都市問題への理解を計る、以上３つの点を意識して出題した。学習事項を正しく理解できているかを確認する問いを中心に据えたが、図表から推察する、地図を描いて考察する、時事的問題への理解を加味した問いも発展問題として出題した。	果物の生産統計や地形の特徴などの基本的な問題は概ね理解できている様子です。一方で標準問題・発展問題では「用語は覚えているが内容の理解については少々浅い」点や「図表の読み取りと推察が苦手」といった点が正答率の差となって表れています。学習の際には、用語だけではなく原因や理由もあわせて理解するよう意識してください。
	（1）B	90%	94%		
	（1）C	90%	93%		
	（1）D	85%	90%		
	（2）E	71%	88%		
	（2）F	76%	93%		
	問２　（1）	66%	79%		
	（2）	46%	66%		
	問３　（1）	43%	60%		
	（2）	60%	66%		
	問４　（1）A	69%	65%		
	（1）B	34%	41%		
	（2）	49%	60%		
	（3）	72%	85%		
	（4）	27%	34%		
2	問１　遺跡	93%	96%	先史時代から現代にいたるまでの日本史の流れを大まかに理解できているか、また時代ごとの代表的な出来事や人物、その順序などについて正確な知識や理解の度合いを見ることを目的に出題した。基本的な問題を多く出題したが、理解度を見るために選択問題には難易度の差をつけた。	基本的な問題が多かったため全般的に正答率は高かったが、並べ替えの問題や、選択肢から複数を選ぶ問題の正答率が低かった。より正確な知識や理解を深めたいところである。東京大空襲の年月日の正答率が一番低かったのは意外。原爆投下・終戦・大震災などの年月日も押さえておきたいところ。
	動物	69%	79%		
	問２	94%	97%		
	問３	80%	82%		
	問４	72%	81%		
	問５	58%	74%		
	問６	51%	65%		
	問７	60%	85%		
	問８	55%	72%		
	問９	37%	51%		
	問10	52%	71%		
	問11	58%	66%		
	問12	91%	96%		
	問13	23%	43%		
	問14	31%	43%		
	問15	80%	88%		
3	問１　（1）	22%	41%	時事問題を軸に標準レベルを多く出題した。テキストや教科書に書いてあることだけの勉強ではなく、興味を持って自分で調べて知識を広げていくことを求めたい。国内外の基本的な出来事に関して、日常的にプラスαの行動が取れているかを問い、その力を試した問題が大半を占めた。	言葉は正解しているが、漢字ミスが多く、点数が伸び悩んでいるパターンが多い。難易度のＡとＢの問題は落としてはいけないレベルだと認識してもらいたい。問５の問題は正解率が低かったので、今後は精査が必要である。歴史の分野でも、「戦後史」は公民分野と連動する所が多いので、合わせて知識を入れてもらいたい。
	（2）	51%	59%		
	問２	15%	25%		
	問３　（1）	66%	79%		
	（2）	86%	93%		
	問４　A	18%	28%		
	B	87%	93%		
	C	99%	100%		
	D	93%	97%		
	E	89%	93%		
	F	38%	49%		
	問５	8%	15%		
	問６	49%	68%		
	問７　（1）	47%	54%		
	（2）	49%	66%		

● 2024 年度　中学入試　第 3 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	75%	78%	水にすむ生物を対象とした環境調査をテーマとした。問1は生態系の分解者に関わる知識問題。問2、3、5は課題文から実験の趣旨や設定について解釈する問題。問4は計算をともなうデータ処理問題であった。	問4のデータ処理は、数が少ない「成城」では理解度の高さが反映された一方、数が多い「群馬」の方は遂行能力の高さゆえの点差が付いた。全体を見渡すと得点状況はよかったものの、成績上位層でもいま一つ差をつけられないでいる。例えば、実験を与えられた通りにこなすだけで条件設定を検討する体験がないと、問5などはスッと答えに結びつかないのかもしれない。
	問 2	69%	82%		
	問 3	63%	66%		
	問 4　成城	84%	85%		
	群馬	66%	82%		
	問 5	70%	74%		
2	問 1	78%	85%	中学で学習する天気に関する問題である。海陸風、雲の種類、前線と雲の関係、雲や霧、湿度について、小学校では扱うことはない内容ではあるが、天気に関してこのくらいの内容は理解しておく必要がある。また、露点の意味を理解し、湿度（相対湿度）は、飽和水蒸気量と実際に含まれている水蒸気の量から計算できるようにしておく必要がある。	海陸風に関してはよくできていた。また、問4を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問4は身近な雲について観察するとともに、形や高さで分類するという視点をもってもらいたい。問7の露点や湿度（相対湿度）は、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。
	問 2	76%	85%		
	問 3	95%	99%		
	問 4	23%	31%		
	問 5	51%	71%		
	問 6	57%	76%		
	問 7	73%	87%		
3	問 1	94%	96%	金属と酸の反応についての実験データをもとに条件を変えた場合のグラフの想定を問う問題を出題。情報を整理し、分析する力やグラフを読み取る力などをはかることをねらいとした。	おおむね想定通りだったと思われる。とくに実験の条件を変えたときのグラフを選択する問4と問6で差がついたことから今回の出題は受験生の力をはかるのに適していたと考えられる。
	問 2	87%	94%		
	問 3	85%	87%		
	問 4	61%	79%		
	問 5	68%	84%		
	問 6	30%	41%		
4	問 1	68%	81%	中学の実験で扱う気柱共鳴管に関する問題。小学校では扱うことはない実験器具ではあるが、文章を読み取り、知っている知識と結び付けて目的と原理を理解する力が必要である。また、発生する現象から式を立てて計算する能力も確認する。	発生する現象を理解することはまずまずできていたが、その原理を理解し、計算して解答することが難しかったようだ。自然現象に関する知識はもちろん、式を立ててそれを計算する力を身に付けてもらいたい。
	問 2	44%	66%		
	問 3	45%	60%		
	問 4	5%	15%		
	問 5	11%	24%		
	問 6	15%	35%		
	問 7	47%	54%		

● 2024 年度　中学入試　第４回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１	52.9%	68.1%	人類の進化と多様性をテーマとする文章からの出題。文字数も比較的少なく（3500字程度）読みやすい内容であったと思う。〈無機物の知的生命体〉を目指す人間こそが新たな人類になっていく、という内容は地球規模の環境の変化にも生き残っていく人類の可能性を示唆していておもしろい。	問1･問2の前後の文脈や指示語を手がかりとする脱文挿入、「～的」という形容動詞の意味を考える問題は論説文の頻出問題。問４が最も大きく得点差が生じたが「しかり（＝同様）」といった語の意味が分かれば平易だったはず。また、本文中から図表空欄部にあてはまる語を探す問５は、図表の表す意味を取り違える解答が多かった。
	問２　ア	75.9%	91.5%		
	イ	81.1%	89.4%		
	問３	62.1%	76.6%		
	問４	54.3%	78.7%		
	問５	52.9%	72.3%		
	問６	33.0%	49.7%		
	問７	50.3%	55.3%		
	問８	58.7%	71.3%		
2	問１	74.4%	93.6%	昭和期の小説の語彙くらいは知っていて欲しいと考え、その時代の小説を選んで出題した。この物語は「霧」が舞台装置として働いており、その出現と消失によって登場人物の気持ちなどに影響をあたえている。この辺りに留意して本文を読めたかどうか、受験生の読解に期待したい。	他の問にも共通しているところだが、合格者と不合格者の差には語彙力の差が顕著である。まずは普段から色々な文章に目を通す癖をつけてから受験勉強に臨んで欲しい。読解では難易度の高い問ほど合格者と不合格者の正答率の差が開いている。難易度の高い問題はその傍線部付近だけでなく、文章全体の中でその傍線部がどのように解釈されるかを考えて読む必要性があった。
	問２	72.4%	83.0%		
	問３	63.1%	78.7%		
	問４	37.2%	55.3%		
	問５	58.7%	70.2%		
	問６	38.6%	53.2%		
	問７	24.1%	34.0%		
	問８	57.8%	70.2%		
	問９	22.7%	42.6%		
3	問１	50.3%	70.2%	百人一首からの出題で、現代語訳が全てある中で、和歌で使われている古語と照らし合わせ、歌に詠まれる世界を具体的なイメージとして捉えられているかを問う。自然の様々な風景と心情との重なりを意識して詠めているかがポイント。	概ね大きなずれなくよみとれていたと思われる。抽象的な表現を具体的な表現に置き換える問題に合格者、不合格者の大きな差がみられた。語彙力もさることながら具体的なイメージが言葉といかにつながるかがポイントと言える。
	問２	85.8%	91.5%		
	問３	86.6%	97.9%		
	問４	71.8%	85.1%		
	問５	69.7%	85.1%		
4	問１　1	86.3%	97.9%	第１回と同じ趣旨。漢字を効率よく勉強するために、部首の由来や意味はぜひ勉強しておいてほしい。	部首の問題というよりは、例文にふさわしい語彙を知っているかどうかが問われたかもしれない。いずれにしても語彙力の有無が出来を左右している。
	2	91.3%	100.0%		
	3	75.6%	87.2%		
	4	61.6%	80.9%		
	5	77.6%	89.4%		
	問２　1	14.0%	17.0%		
	2	26.5%	42.6%		
	3	1.7%	2.1%		
	4	14.2%	25.5%		
	5	0.6%	0.0%		

● 2024 年度　中学入試　第４回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	83%	89%	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確かめる小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、数の性質、図形（平面・立体）の計量、場合の数を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問８の場合の数の問題は、状況を正しく把握し、理由を説明する力を見るねらいがあった。	大問１の受験生全体の得点率は比較的高く、多くの受験生がここで得点を伸ばした。問６の図形（平面）の計量の問題は差が出る問題であった。また問８の場合の数の問題は説明の部分で本質を突くことが困難なため得点率が他の問題より低かった。
	問２	85%	98%		
	問３	82%	85%		
	問４	96%	100%		
	問５	86%	94%		
	問６	78%	96%		
	問７	83%	94%		
	問８	9%	13%		
2	問１	62%	83%	直角三角形を、とある点を中心として回転させる問題であった。図に必要な補助線を書き込み、式にしてからうまく計算できるかを問うねらいがあった。	基本的な、図形が動いたあとの長さや面積を考える問題であったが、思いのほか受験生全体の得点率は低かった。比や面積を求めるときに計算の工夫が必要だがそこができずに計算ミスにつながったと考えられる。
	問２	60%	87%		
	問３	56%	81%		
3	問１	82%	96%	数量（歩数）に関する問題であった。この問題を通して、逆比に関する理解があるか、そして問題の状況からその結果を次の問２で活用できるかをみるねらいであった。	問２について、Ａ君がＢ君に追いついたということは、２人は同じ距離を歩いたということに意識が向けば、そう難しくはない。進んだ距離の比は速さの比に等しいことを利用してそれぞれの歩数の比を求めることができていない受験生が多かった。
	問２	25%	47%		
4	問１	66%	98%	立体をいくつかの平面で切り分ける問題であった。問１は基本的な体積の求め方を問う問題で、問２は比の扱い方をみるねらいであった。それぞれの問題で、体積を求めたい立体の形を考える、空間認知能力が必要である。	問１は立方体から三角すいを４つ切り取った正四面体で、問２はその立体から体積比が1/8の正四面体を４つ切り取った正八面体であることに気づくことができれば簡単に解ける問題であったが、特に問２は気づくことができた受験生は少なかった。合否を分けた大問であった。
	問２	31%	66%		
5	問１	75%	87%	整数の問題である。長い文章を読み、必要な情報を抜き取り、式にする力が必要である。問１と問２は易しい問題であり、これらは落とせない。問３は２組の数の差をとり、最大公約数の問題に落とし込むことが必要であるが、難易度は高い。	最後の大問で時間があまりない中であったが、落ち着いて問題文を読み、解答ができている受験生は想定より多かった。問３に関しては、少々複雑な問題であったがこちらも想定を上回る得点率であった。
	問２	71%	89%		
	問３	22%	47%		

● 2024 年度　中学入試　第４回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１　1	90%	96%	日本の世界自然遺産を題材として、地理全般にかかわる出題をした。資料の読み取り問題について、熱帯気候の判別は習っていない分野であるが、資料と文章の整合性を取る解答を導くことができるかを確認した。	資料の読み取りは想定していた以上に正答率が高かった。資料読み取り問題では、与えられた資料の意味を考え、自ら文章化することが重要であるが、多くの受験生が出来ていたと考えられる。
	2	99%	100%		
	3	10%	19%		
	4	79%	94%		
	問２	84%	94%		
	問３	90%	98%		
	問４	73%	87%		
	問５	83%	89%		
	問６	91%	94%		
	問７　(1)	59%	72%		
	(2)	75%	94%		
	問８	45%	57%		
	問９	97%	98%		
	問 10	38%	55%		
2	問１	77%	81%	古代から現代までの基本的な人物、出来事などをしっかり学習できるかを確認した。教科書レベルの出来事の意義、因果関係、人物の動きなどを大づかみに理解しているかを出題した。	全体的に基礎基本をしっかり学習し、本校の過去問もよく研究しているという印象である。漢字での解答が求められる設問の正解率が高かったのは、丁寧な学習を行ってきた受験生が多かったことをあらわしている。一方で問２の不正解などに見られた正確な漢字で書くことができないといった状況が合否を分けたと思われる。
	問２	57%	83%		
	問３　(1)	68%	79%		
	(2)	94%	96%		
	(3)	93%	96%		
	問４	54%	66%		
	問５	91%	98%		
	問６　(1)	93%	100%		
	(2)	81%	79%		
	問７　(1)	85%	98%		
	(2)	76%	91%		
	(3)	87%	96%		
	問８　(1)	85%	98%		
	(2)	82%	87%		
	問９	81%	91%		
	問 10　(1)	99%	100%		
	(2)	33%	36%		
	問 11　(1)	82%	89%		
	(2)	72%	85%		
	(3)	61%	68%		
3	問１	87%	100%	2023年に起きた出来事を年表形式にして出題した。毎年、公民分野では時事問題を多く出題している。時事問題に絡めて公民分野の基本事項を理解しているかを出題のねらいとした。常日頃から国内、国外の出来事に興味・関心を持ってほしい。	全体的に基本的事項についてはよく出来ている。正答率が低めであった、問５や問６は地理的な知識が必要とされるものであり、受験者平均と合格者平均の差が出た問題であった。歴史・公民分野であっても地理的感覚を常に持っていてほしい。
	問２	90%	96%		
	問３	95%	100%		
	問４	48%	66%		
	問５	48%	62%		
	問６	40%	43%		
	問７	43%	47%		
	問８	58%	66%		
	問９	34%	45%		
	問 10	92%	98%		
	問 11	43%	66%		
	問 12	49%	53%		
	問 13	59%	66%		

● 2024 年度　中学入試　第４回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１	51%	72%	ヒトのからだをテーマとした。問１は眼に関する知識問題。問２は筋肉に関する知識問題。問３～５は消化と栄養素に関する知識問題。問６は血液量を求める計算問題であった。	問３は知識が細かく難易度が高い解きにくかったであろう。それ以外は知識問題も良く出来ている。計算問題も文章をしっかりと理解してできていた。
	問２	71%	70%		
	問３	50%	55%		
	問４	66%	83%		
	問５	85%	94%		
	問６	41%	70%		
2	問１	81%	91%	川のようすや地層・化石を問うなど、基本的な内容を出題した。問1、問2、問4は川のようすについての基本的な問いである。問３は川の流速が場所によって異なることを知らないと答えるのが難しいと思うが、川の流れのようすをイメージできれば､答えることが可能である。問５～問８は地層・化石の典型的な問題であり、点数を取りたいところである。問９はニュースにもなったので知っている人が多かったのではないかと考えられる。	問３を除くと、おおむね想定通りだったと思われる。問1､問2､問４～問８は、基本問題であり、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問３を知識ではなく、川の流れのようすをイメージして解くことができるとよい。問９のようなニュースになった科学的な話題についても興味・関心をもってほしい。
	問２	82%	89%		
	問３	23%	19%		
	問４	99%	100%		
	問５	83%	96%		
	問６	50%	64%		
	問７	57%	77%		
	問８	68%	70%		
	問９	36%	57%		
3	問１	60%	74%	合金を扱った問題である。文章やデータの読み取りから、合金の種類を推測を行う問題や、また、その合金に含まれる金属と酸の反応で発生する気体量のデータから計算をする問題を扱った。計算問題はデータを読み取り､比の計算ができること、また煩雑な計算問題にも対応できる計算力をもっているかを問うた問題である。	問1の合金の推測や、問2、問3のシンプルなデータの読み取りと比の計算に関しては、もう少し高い正答率になることを期待していた。問4～問6は計算が煩雑であったため､正答率は下がった。しかし、近い解答にたどり着いている受験生も多かったため、基本的なデータの読み取りや比の計算は身についている受験生が多かったように感じる。それに加えて、問題を最後まで解き切る計算力も理系教科には必要であるため身につけてほしい。
	問２	69%	74%		
	問３	63%	77%		
	問４	40%	62%		
	問５	11%	19%		
	問６	4%	15%		
4	問１	79%	89%	密度と浮力についての基本から応用までの内容を問うようにした。問1、問２は基本的な設問となっていて確実に得点を取りたいところである。問３は物体の密度と液体の密度の違いを見抜く必要がある。問４は上記に加えて力のつりあいの関係を、問５はどのような条件のときに物体が浮かぶのか考察できたかを試した。	問1、問２は非常によくできている。問３の得点率は当初の想定よりも低く、重力と浮力がつりあいの関係になっていることに気がつかなかったか、あるいは液体中の物体の体積を間違えたと推測する。問4、問５は想定よりもよくできていた。日頃の勉強の成果が出たものと判断する。
	問２	78%	94%		
	問３　(1)	53%	74%		
	(2)	44%	70%		
	問４　(1)	73%	87%		
	(2)	71%	87%		
	問５	60%	74%		

● 2024 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1	34.9%	44.4%	非凡教育がクローズアップされることが多い世の中だが、最近では平凡教育の重要性が見直され始めてきている。ものごとを多角的な視点で見てもらいたいと考え、この文章を選定した。	知識問題は正答率が高く、しっかりと理解していた。一方で抽象的な内容に対しての問題は正答率が低かった。読解しきれていない箇所を解釈できるまで味わうような試みも学習には必要である。
	問 2	87.7%	97.4%		
	問 3	74.5%	80.3%		
	問 4	69.8%	82.1%		
	問 5	69.8%	76.9%		
	問 6	65.1%	72.6%		
	問 7	44.7%	52.1%		
	問 8	57.0%	74.4%		
	問 9	22.7%	30.5%		
	問 10　(1)	44.3%	59.8%		
	(2)	56.6%	65.0%		
2	問 1　ア	27.2%	26.5%	身分制度が色濃く残る時代から近代的な人間関係へと移行する社会で、人格形成期の主人公が経験した出来事を通じてどのような心情を抱くのかをていねいに読み取る力を試した出題。あわせて、それぞれの登場人物についての描写から、性格や人物同士の人間関係が読み取れるかを問うた。さらに、やや長い字数で心情を説明する記述問題も出題し、表現力を試した。	語彙力で差がつく問題が散見された。全体としては平易な文章だが、多少難しい語句も含まれている。その場合、前後の状況や登場人物の性格などを踏まえて類推することも必要。問3から問6までは登場人物の性格を踏まえたうえで人間関係を考慮して解答する必要がある。心情や性格を描写した部分に注目して読む習慣をつけたい。記述問題は字数から類推し、二つのポイントがあることに気づいてほしかった。
	イ	35.7%	39.3%		
	問 2	66.8%	73.5%		
	問 3	4.7%	8.5%		
	問 4	81.3%	93.2%		
	問 5	70.6%	76.1%		
	問 6	63.4%	56.4%		
	問 7	85.5%	91.5%		
	問 8	18.4%	25.8%		
	問 9　(1)	34.0%	41.0%		
	(2)	31.9%	38.5%		
	(3)	20.9%	24.8%		
3	問 1	53.2%	68.4%	描かれている内容から情景を想像しながら現代詩を読み、技法に注目しながら表現効果を考えることができるかを問うている。詩を読む際に表現技法に注目するのは、そこに作者の想いが強く表れるからだが、まずは代表的な技法の種類とその具体例をおさえておきたい。詩が苦手という声をよく聞くが、必要な知識を得たうえで、情景を想像しながら読むことを心がけてほしい。	描かれている内容を確認する問1・問2・問4で差がついた。やや技巧的な表現ではあるが、少女がなわとびをしている情景を具体的に想像すれば解答は容易なはず。問5は表現技法の基礎知識があればよい。問3はなわとびを人生になぞらえている点を問う応用問題で、正答率は低く差がつきにくい問題であった。
	問 2	64.3%	77.8%		
	問 3	18.7%	18.8%		
	問 4	33.2%	41.9%		
	問 5	36.6%	41.9%		
4	問 1　1	43.8%	51.3%	日常使われている日本語の語彙力（正確性）を問うべく出題した。普段から活字を読み、またその中で「ことば」に対してしっかり意識を持っているかどうかが問われていた。	全受験生と合格者の得点率の差が最もついたのが、この大問であった。その中で条件をよく読んでいないのではないかと思える誤答も多く見られた。問2-1を「焼け石に水」と答えていたのはその一つの例である。入試を受けるにあたっては反射的に解くのではなく、しっかり読み込んで解く癖をつけて欲しい。
	2	66.0%	75.2%		
	3	77.9%	89.7%		
	4	43.8%	54.7%		
	5	55.7%	70.9%		
	問 2　1	14.9%	21.4%		
	2	60.4%	76.1%		
	3	69.4%	81.2%		
	4	54.9%	62.4%		
	5	40.4%	51.3%		

● 2024 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	94%	97%	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形（平面・立体）の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問1・2は計算問題、問3～6は特殊算を幅広い分野から、問7・8は図形の問題を出題した。	基本的な計算は例年と変わらない得点率であったが、問6の場合の数に関する問題については、不慣れな問題であったが、想定よりも低い得点率となった。立体図形の計量については、正確に計算する力がやや足りていないように感じた。
	問 2	87%	96%		
	問 3	71%	85%		
	問 4	68%	93%		
	問 5	83%	93%		
	問 6	40%	66%		
	問 7	65%	84%		
	問 8	57%	83%		
2	問 1	93%	96%	速さの問題。基本的な問題ではあるが、問題の状況をしっかりと把握し、丁寧に考えていく必要がある。グラフなども活用し、状況を整理することがポイントとなる。	問1・2は基本的な問題であり、問題の内容も頻出のタイプであるため、よくできていたと感じる。問3は、走ることと休むことを繰り返す問題のため、状況を整理することが重要で、ダイヤグラムなどを活用し丁寧に解くことが必要であったが得点率は低くなった。
	問 2	73%	87%		
	問 3	25%	42%		
3	問 1	76%	93%	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、正方形を題材とした。問1は辺の比、問2・3は面積を求める問題である。辺の比を利用して、面積計算をするという、図形に関する性質を受験生に求めた。	本校では頻出となる平面図形と比の問題であったため、よくできていた。合格者平均と受験者平均の差が大きいため、しっかりと練習して確実に得点できることが合否を分ける問題となった様子である。
	問 2	69%	92%		
	問 3	60%	86%		
4	問 1	89%	92%	球をやり取りする中で、具体的な実験的操作を通じて、数の規則性を見抜き、的確に計算で処理をすることを問う問題であった。具体的操作を地道に繰り返せることが解決の糸口となる問題であった。	球のやり取りが進むにつれて、どのように増減するかを具体的に操作していく中で読み取ることがポイントになる問題であったが、ルールをしっかりと把握できないため、考えが進まないような受験生も多かった様子である。
	問 2	28%	46%		
5	問 1	59%	83%	立方体の切断とそれに伴う体積の問題。図形の切断についての基本的な理解が出来ているか。それに伴う体積の計算を正確にできるかを問う問題であった。	立方体の切断についての問題。問1の長さを求める問題で難易度は高くしていないが、想定よりも低い得点率となった。しっかりと問題を把握することができていなかったことに要因があるようである。問2はやや難易度を高く設定した問題であったが、想定よりも得点率は高くなった。
	問 2	32%	55%		

● 2024 年度　中学入試　帰国生 A 方式　英語　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	Q1	38%	40%	英検準１級レベルの語句を正しく理解できるかを問うた。中には抽象的な表現も出題がなされた。熟語に関してはやや難解なものも今回は出題がされた。後半の３題は単語が正しく綴れるかを問うた。	例年通り後半は単語を綴る問題を出題しているが正確性がまだ足りないと感じた。一方で準１級標準レベルの語句は良くできていると言える。抽象性が伴う語句は中学入学後は更に必要性が増すので今後も取り組んでもらいたい。
	Q2	42%	47%		
	Q3	55%	73%		
	Q4	36%	30%		
	Q5	86%	97%		
	Q6	14%	7%		
	Q7	78%	90%		
	Q8	18%	23%		
	Q9	59%	67%		
	Q10	59%	83%		
2	(1)	18%	10%	複数人によるやり取りが続くやや長めの英会話の文を読み、その内容を正しく理解した上で、選択肢から空所を埋める作業により全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は相関性があると考えられる。合否の差は主に英語理解力の差と判断できるが、(1) は選択肢の字面（じづら）のみ見れば間違える問題。(2) は save：節約になる、という本文中の意味をしっかり取れなければ正解できない問題。深く考えずに何となく解答した受験生が多かったと考えられる。
	(2)	38%	37%		
	(3)	23%	30%		
	(4)	72%	83%		
	(5)	53%	60%		
	(6)	46%	53%		
	(7)	41%	47%		
	(8)	74%	83%		
	(9)	80%	97%		
	(10)	53%	70%		
3	Q1	30%	37%	英文を文構造を考えながら論理的に整序できるかを問うた。レベルは全て大学入試レベルに相当するが全て英検２級レベルの問題と言える。また基本的な語句が理解できているかを問う問題も出題した。	概ね良好と言える。しかしまだ語句を問われる問題でやや差がみられる。大学入試レベルではやはり語句を聞かれる問いは少なくなく、粘り強く覚えていく必要がある。文構造を理解して整序する問題は良い出来と言える。
	Q2	51%	73%		
	Q3	65%	78%		
	Q4	86%	93%		
	Q5	87%	93%		
4	Q1	55%	70%	会話内容と幸福感の相関関係を検証する内容の文章読解問題。内向的な性格の人と外交的な人との比較を交えての文章構成になっており、それぞれのタイプの傾向と、どういう場面においてはどの会話内容が友好的に感じられるかなどを、整理しながら読むことが要求される。	総じて整理しながら理解できていたようであった。ただ、Q3 の本文の内容と「異なる」ものを選ぶ問題に関しては正答率が低い結果となった。設問文の内容を取り違えたか、本文中の一見似たような文章内容の違いを識別できなかったなどの理由が考えられる。内容比較問題の場合、どのような条件で同じあるいは異なる結果が出たのかなど、自分自身で工夫しつつ整理しながら読むことが必要である。
	Q2	53%	67%		
	Q3	31%	27%		
	Q4	47%	60%		
	Q5	51%	67%		
5	Q1	54%	59%	物語文を素材に、主に日本語での記述問題（和訳・説明問題）を通して、英語の読解力だけでなく、読み取った内容を日本語で表現する力も測った。長文中の語彙レベルはそれほど高くないものの、話の流れをしっかりと理解した上で日本語で的確に記述できるかが鍵となる。	本文内の使用語句は比較的平易だったものの、語数が昨年より若干増え、単純な日本語訳だけでなく、話の流れをふまえて日本語でまとめる問題もあったためか、正答率は想定よりも低かった。わからない語句の意味を類推しながら話の筋を追うのはもちろんのこと、細かい点まで丁寧に読む習慣をつけてほしい。
	Q2	48%	57%		
	Q3　(a)	36%	42%		
	(b)	36%	48%		
	Q4	42%	63%		

● 2024 年度　中学入試　帰国生 B 方式　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問 1　(1)	48%	65%	地理分野と歴史分野からの出題。都道府県庁所在地や歴史用語の書き取りや、各時代の特徴の正誤問題、時代順の並べ替えなど、基本問題の知識の確認や、複数の知識を組み合わせて解くような構成にした。	正誤問題は、3つの文の正誤判定をしなくてはならないため、差が広がったといえる。時間的な制約が大きいため、入っている知識を正しく読み取る力が必要である。都道府県庁所在地や、歴史用語の書き取りは、誤字が目立った。もったいないミスは普段から気をつけておきたい。
	(2)	69%	81%		
	(3)	78%	91%		
	問 2　(1)	84%	94%		
	(2)	73%	87%		
	問 3　(1)	41%	57%		
	(2)	78%	93%		
	問 4　(1)	49%	60%		
	(2)	82%	96%		
	問 5	33%	46%		
	問 6　(1)	54%	69%		
	(2)	58%	68%		
	(3)	55%	72%		
	問 7	52%	75%		
2	問 1	92%	97%	近現代分野と公民分野からの出題。政治分野の基本事項だけでなく、経済分野から（昨今の円安の状況）も出題し、時事的な要素を含め形にした。	近現代分野の並べ替え問題は、事実の羅列だけにとどめてしまうとなかなか難しい。必ず対になる出来事があるので与えられている選択肢以外のできごとを入れつつ考えていきたい。設問によっては、過去問と似たような形式のものもあるため、しっかりと正解したい。
	問 2	83%	93%		
	問 3	21%	28%		
	問 4	41%	66%		
	問 5	84%	94%		
	問 6　(1)	28%	35%		
	(2)	70%	88%		
	問 7	87%	96%		
	問 8	78%	87%		
	問 9	50%	60%		
	問 10　(1)	81%	94%		
	(2)	29%	46%		

● 2024 年度　中学入試　帰国生 B 方式　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	85%	97%	昆虫の体のつくりと行動習性をとりあげて出題した。問1・2は食性と昆虫の口のつくりにかかわる知識問題。問3・4は親が子を保護する習性と若齢期の生存率とのかかわりを示した生存曲線のグラフの読み取りと解釈の問題。問5は生存競争の力の強さによって生息域がいかにすみ分けられるか予想する考察問題。	全般的に正答率は良好といってよく、気持ちよく解けた受験生は多かったであろう。問1は複数の動物につき、すべて正答でないと得点できないことからやや点差が付いた。問3と問5、とりわけ後者は図やグラフを前に、どれだけ解釈の力を発揮できたか、差が付いた。
	問 2	90%	99%		
	問 3	58%	70%		
	問 4	41%	51%		
	問 5	67%	85%		
2	問 1	34%	48%	星や星座の性質、星の見え方、星の明るさを問うなど、基本的なことから応用までの内容を出題した。問1～問4は基本的な問いで点数を取りたいところである。問5は実際に星空を眺めたり、プラネタリウムの投影を見たりしていると答えを出すことが容易である。問6は問2～問4の応用で、南半球の星空がイメージできないと答えが出ない。問7、問8は問題文中に書かれていることを読めば、答えることができる。	問1は複数回答のため、問4は星の運動がイメージできていないため、得点率がやや低かった。問2は7割を超える得点率となっていて、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。問5については出題の意図がわからない受験生が見受けられ、得点率が低かった。問6は星の観察を南半球へ視点を移動して考えなければならないため、難易度が高かった。問7、問8は問題文をきちんと読みこなせた受験生は答えることができたのではないかと考えられる。
	問 2	67%	76%		
	問 3	36%	57%		
	問 4	38%	45%		
	問 5	14%	19%		
	問 6	30%	36%		
	問 7	50%	58%		
	問 8	41%	63%		
3	問 1	80%	96%	過酸化水素と二酸化マンガンの実験をテーマに、与えられた情報から気体の重さや体積を求められる計算力をはかることをねらいとした。また問1、問2では物質の性質に関する知識を問う問題を出題し、基本事項をおさえられているかをはかることをねらいとした。	全体的によくできていたと思われる。問1、問2の基本問題は確実に取っておきたいところである。問4の計算は頻出なのでぜひ解けるようになってほしい。問5は問3の答え、酸素とメタンの関係、酸素の重さと体積の関係の3つの情報を組み合わせて問題を解くため情報を整理する力が必要であった。
	問 2	76%	91%		
	問 3	71%	85%		
	問 4	31%	48%		
	問 5	47%	70%		
4	問 1	91%	97%	定滑車と動滑車を題材にして加える力や仕事量（力の大きさ×物体が動いた距離）を問うなど、基本的なことから応用までの内容を出題した。問1、問2は基本的な問いで点数を取りたいところである。問3は問2の応用で、問2の考え方を理解していないと答えが出ない。問4はつりあいの関係を見抜かなくてはならない。問5、問6は仕事の原理を問うた。	問1、問2は想定通り、よくできていた。問3については出題の意図がわからない受験生が見受けられた。問4は難易度が高く、力のつりあいから答えを導いた受験生は立派である。問5、問6は6割を超える得点率となっていて、塾などで類似の問題に取り組んだことがあったかもしれない。
	問 2	76%	90%		
	問 3	50%	64%		
	問 4	30%	36%		
	問 5	65%	69%		
	問 6	62%	69%		

● 2024 年度　中学入試　グローバル方式　英語　設問別得点率 ※グローバル方式の算数の分析は第３回入試と合わせて掲載(P.28)

大問	小問	得点率 全受験生	得点率 合格者	出題のねらい	講　評
1	問１	94%	100%	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、しっかりとした不規則変化動詞の知識も当然必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。ただ、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。特に、不規則動詞の変化については、普段から特に意識して学習する必要があるだろう。
	問２	94%	100%		
	問３	87%	100%		
	問４	90%	100%		
	問５	42%	67%		
	問６	97%	100%		
	問７	94%	100%		
	問８	87%	100%		
	問９	77%	83%		
	問 10	63%	75%		
2	問１	94%	100%	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも並べ換えた上で、２番目と４番目の語句を解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準２級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。問10の仮定法を含んだ問題であっても合格者は運用できていることがうかがえた。合格者の平均正答率は95％となっており、今後の確約が大いに期待される。
	問２	90%	100%		
	問３	61%	92%		
	問４	32%	58%		
	問５	94%	100%		
	問６	84%	100%		
	問７	84%	100%		
	問８	87%	100%		
	問９	87%	100%		
	問 10	74%	100%		
3	問１	97%	100%	メッセージ形式の長文問題である。それぞれ内容を問う問題である。筆者が発信する情報を時系列順に正確に思考できるかなどを問うた。設問に対しては、時間の推移と出来事を掌握する必要がある。回答は番号で答えさせる形式で上記内容が分かっているかどうかが回答へのカギとなっている。該当しないものに関しては平易な内容でまとめた。	正答率は例年と比較しかなり高い結果となった。選択肢の内容も相当ストレートなもので、基礎的な学習が出来ている受験生は迷わず解答できたものと思われる。英検準二級レベルとほぼ同等の語彙レベル及び長さの出題となった。
	問２	100%	100%		
	問３	100%	100%		
4	問１　①	71%	83%	本問はやや長めの長文を正確に読み取れるかを問う総合問題。正確に読むためには、基本的な文法力は身についている前提で、論の展開から、「A＝Bだから A’＝B’ である」というように論理的に読める力を測ることに力点を置いた問題とした。	問1⑦からも分かるとおり、最終段落は全体が夜についての話で、「アメリカでは皆クルマで移動する」だから「終電を気にする必要がない」というように論理的に読んで欲しい。また使用した単語は英検準2級レベルなので、市販の単語集なども使って単語力を強化して欲しい。
	②	52%	58%		
	③	94%	100%		
	④	68%	92%		
	⑥	87%	100%		
	⑦	52%	25%		
	問２　⑤	19%	42%		
5	問１	58%	85%	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は、長文全体の流れの中での一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳しているか、にポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	英検準2級レベルの問題である。内容的に小学生にも馴染みのあるものであったと思われ、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のもの、修飾関係を間違えているものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問２　(1)	81%	100%		
	(2)	84%	100%		
	(3)	90%	100%		
	(4)	94%	100%		